

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。これより、宮本——7番宮本栄八の一般質問を始めさせていただきます。

本日の題目としては、1、まちづくりについて。2、道路交通問題について。なかなか遅い…（発言する者あり）3——3。はい。耐震……

〔市長「静かにしてください」〕

災害対策について。（発言する者あり）4、教育・子育てについて、順次伺っていきます。質問もたくさん出しておりますので、説明は、ま、簡潔に言っていききたいと思います。

まず第1番目です。

〔市長「何か元気なかね」〕

はい。第1番目ですけれども、まちづくりについてです。1番の都市計画事業、ということですが、都市計画区域決定から、1年半と。北方、山内の事業法の具体化が見えない。どう進めていくかと、もうここに、もう、質問のすべてが書いてありますけれども。これは、昨年の3月にですね、都市計画区域が旧武雄市から、ほぼ北方町の全域、山内町の全域ということになっております。そして、都市計画も、何ですかね、いろんな場所が、まあ、あるというふうに思うんですけれども。

実際問題ですね、都市計画区域が設定されたと。事業は始まらない、と。都市計画決定が決定されると、何か、倉庫とか何とか建てる時も、建築確認とかの費用がかかるということで。もう、どうせ、決定したなら事業を早く入れ込んでですね、ま、住民のそういう建築の負担よりも、こっちの事業の効果が高いというような格好に、まあ、持っていけないかなと。それと、またその事業を決定すれば、合併特例債なんか利用できるやつは、それに乘せていっていけばいいんじゃないかなというふうに思うんですけれども。現在のところ、その進め方ちゅうんですかね。設定はしているけど、具体的にどうしていくのか。その辺がちょっとよくわかりません。

この間、農業のほうで北方のほう、除外するというようなこと話しが出てるんですけれども、その後、どういうふうになっていくかもわからないもので、その辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

都市計画についてもですね、土地の利用計画ということでございます。民間事業を誘導するため、農業振興地域の指定を見直すなど、適宜行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

適宜見直してるといえるのか、もう都市計画区域決定はしててですよ、もう場所ももう、わかっているわけですよ。だからこれを、もう、こう大きな範囲になってるもので、このすべてができるわけがないわけだからですよ。どの辺の地域とか、どの幹線を都市計画道路にするとかですよ。そういうのを具体的に進めていかなきゃいけないと思うわけですよ。

だから、まず第1番目には、企画のほうでですね、国土利用計画を見直して、この地域をこういうふうにするというふうにいかないと、これずっといつまでたっても進まないような気がするんですけども、その辺どうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

議員、先ほどおっしゃいましたように、土地の利用計画については、基本的には国土利用計画というのが全般的にベースとしてございます。

その中で、都市的利用エリアであったり、農業新興エリアであったりということで、各論の土地利用計画がございまして。都市計画エリアについても、農業新興エリアがかぶさっている地域もございまして。

そういったことで、先ほど申しましたように、農業振興地域の指定を見直すなど、適宜判断してきているということでございます。（「うん、そうです」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

適宜つつつてから、何か言われたときに見直すとか、一応全部を設定しているわけだからですよ、一応、第1段階はこういうふうにする、第2段階はこういうふうにする、というふうなことでですよ、進めなくてはいけないんじゃないですかね。

適宜という意味は、どういうことですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

まさしくおっしゃいますように、第1段階ということでございます。都市計画決定エリアの中でも、農業新興エリアがあるということでございます。ですから、5年に1度、農業新興計画の見直しというのが来ますが、そういう段階で見直してきているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ここで、こういうふうになくなるのは、思わなかったんですけども。

結局はですよ、5年の農業の見直しっていえばですよ、去年だったですかね、一応、農地転用をしばらく止めてですよ、農地についての結論を出したわけですよ。

ということは、次は5年後になるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

土地の利用につきましてはですね、全体的な長期ビジョンを持つ必要があるということから、国土利用計画というのが、ベースとしてございます。その次に、都市計画エリアであったり、農業新興エリアであったりという、個々の土地利用の計画というのがございます。

毎年、これを見直すということでありまして、非常に御迷惑をかけますので、おおむね、5年に1度の見直しということで、見直しをしてきているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっとこれ、ずっと話すと、あれですので、一応そういうふうな、今すぐ順序立ててやってく、という方向にはなっていないという、まあ、ことだけちょっと理解しました。

そしたら、次はですね、東部開発地域です。旧武雄市のときからですね、もともと今の5haが完了したら、もう、もともと45haくらいだったと思うんですけども、その、農水省ですかね、その農振除外とかをするにあたっては、まず5ha完了したら次にかかってくるわけに、こうなったと思うわけですよ。

それで、大体、こうちょっと地図は違いますが、ここは東部開発の45haあって、今アクロスプラザがある、この5haぐらいが埋まったら、次にいってくださるわけに、こうだったと思うわけですよ。もう埋まってるわけなんですよ。だから、次にいく、いっていい状況になっているわけです。

それで今、ここに、大楠水谷線っていうのを、ちょっと12m道路ですかね、こうつくっているわけなんですよ。そういうふうになれば、ここも、もともと、武雄の市民病院が移ってくるような考えだったのか……（発言する者あり）医療福祉ゾーンっていうのが大体設けられつつあるわけですよ。そこも、そういうの、形態が変わっているから、ここ自体の位置づけも変えていかんといかんじゃないかなということで、この東部の、このこれが埋まっておりますので、随時拡大をするってのもともと申してたちゅうことと、12m道路ができたということで、その辺について、東部開発についてはどういうふうにご検討されているかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、少なくとも7年前に、市長に就任させていただいて、これを見直しをするとか、拡大をするっていうのは一言も言っておりません。ですので、それはちょっと誤解なきようにお願いしたいと思いますし、先ほど、市民病院っておっしゃいましたけど、新武雄病院だと思うんですが、それはそれとして、もともとそれを見越して、これをやっていたわけじゃないっていうのは、それはもう議会の皆さんたちが一番御存じだと思いますので、そういう、何かこう、主客が転倒したような発言は、あまりなさらないほうがよろしいんじゃないかなと、いうように思ってます。

いずれにしても、東部計画の見直しを行うつもりは全くございません。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

これは、旧武雄市のときの計画だからですね。それは市長はどうかはわかりませんが…
…

〔市長「どうかわかりませんでなん」〕

我々は、そういうふう聞いて、ここが埋まれば次に移りますよ、と。

〔市長「いや、言うてませんよ、そんなことは」〕

いや、そういうふうで……

〔市長「言うてませんって。言うてませんって」〕

旧武雄市のときになっとったわけですよ。（発言する者あり）それで、ここの道路も広げる。後ろの道路も広げるといふ計画をしとったわけですよ。

〔市長「知りませんよ」〕

ここは、新武雄病院じゃないですよ。武雄の市民病院がつくり直すときに、こっちに移ってくるっていうことを、まあ、考えとったっていうふうなことじゃないかな、ちゅうことで思ってるわけですよ。（発言する者あり）まあ、結局……（発言する者あり）結局……（発言する者あり）

〔市長「うそばっか言うな」〕

結局は、東部開発は……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

この先進めないっていうことで、いいんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

〔市長「うそばっか言わんでくれって言うてくれよ、ちょっと」〕

○宮下つながる部長〔登壇〕

若干誤解があるようでございますので……（笑い声）

〔市長「若干じゃなかぞ」〕

説明をしておきたいと思えます。

東部地区の都市開発エリア、これについては、全体が40haであります。

〔7番「45」〕

今、議員さんは、5haができたから、次はどうするのかというふうに捉えられておりますが、我々は、この40haのゾーンを東部開発エリアというふうに考えてきております。

この開発エリアのそれぞれのゾーンの開発の方向ということでございますが、手法的にはですね、民間事業者の開発ということを中心に導入するかということを中心に考えております。そういうことでありますと、社会の経済情勢ということを見ながら、個々の進出案件について判断していくということでありまして、そういう民間の開発の誘導を、個々の案件ごとに判断しながら、認可といいますか、誘導をしていくという手法をとっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ということは、開発しないじゃなくて、民間の人が、ここでしたいと言え、結局、前みたいに、市が間に入って、土地の方とか水路の問題とか、そういうのを解決しながらやっていくということになるわけですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

民間の事業者が開発案件を出されるとしますと、これを開発行為といいます。

これは、法律の手續に基づいて、そういう手續をされるわけですが、その際にですね、用排水路の問題であるとか、消防水利の問題であるとか、さまざまな観点から、行政としては事前にチェックする必要があるということございまして、そういう、法に基づいた手續を行いながら誘導しているということをやっていくと、いうことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

以前のときは、ここが来るにあたっては、行政のほうで、いろいろ調整もしたんじゃないかなというふうに私は思っておりますので、ちょっと、そういうふう発言しました。

そしたら、まずは業者のほうが言ってきたら、ということになるっていいことですよ。はい、わかりました。

ちょっと今、その12m道路ができてですね、いい土地ができて、この奥のほうにはですね、住宅ゾーンというのもありましたからですね。だからそういうのも進めるためには、ある程度市が中心になってやっていかんと、なかなか進まんじやないかなっていうふうに思いますけども。そしたら、この45ha、もう一体何だったかなちゅうことになってくるんじゃないかなと思います。

次は、まちづくりについての駅周辺整備です。まず、一番最初、南口広場です。南口広場、これ皆さんには、まだ——見てないかもしれませんが、一応ちょっと、言えば見せてもらえるちゅうことでいただきましたけども。以前も、ちょっと触れましたけども、その南口の広場がですね、あまり、スペースが有効に利用されてないというような感じに思ったわけですよ。以前は、そういうようなことを言ったら、こっちの清本跡地のほうが駐車場になるから、駐車場はたくさんありますよ、というようなこと言われてたもんで、ああ、そうなのかな、というふうにも思ってたんですけども。

今度、清本跡地のほうをですよ、結局、こう民間のほうに譲るとなったら、駐車場じゃない、っていう可能性が高いわけですよ。そうすると、どうしても、ここの今の駅の南口の、その駐車スペースっていうの、ある程度の確保っていうんですかね、停車っていうか、その辺が必要になるんじゃないかなと思うわけです。

これを見たときにまずは、その一般のお客さんの停める場所が少ないなど。基本的にこなんですけども、少ないなということも思いますし、観光バスが、ここに停まると、何か、くの字型になっって、これ前には出れんのかなと。そしたら前のバスが、先に行かんとこれが行けんのかなとか、いろいろ、こう、あれもあるんですよ。送迎バスがここで送迎したら、こっからも、やっぱ雨に濡れていかんばいかなとか、とか。また一般客がここに入ってくる、入ってくる人、出る人、ここ回る人ちゅうことで、ここがちょっと混乱するんじゃないかなとか、いろいろ思うわけなんですよ。自転車置き場もないと。前は、自転車置き場をこっちの近くに置くっていうことだったんですけども、少し奥にいていますので、こっちにきた人は、自転車はずっと坂上って、向こうに行って、おろさんといかんとかなと。

その辺の関係もありまして、もうちょっとこの辺、こう、スペースを有効に活用する案に修正できんかなというふうに思いますけども、この点についてお聞きします。（「確認もしたらんとにあがんと見すつがおかしかやん、そりゃ」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

これね、思いつきで僕らやっているわけじゃないんですよ。例えば商工会議所であったり、商工会であったりとか、地元の関係の皆さんであったりとか。これ議会でいうと、建設委員会でも、議論もあったと思うんですけども、そういう中でやっていますので、こういう、何か思いつきみたいなことは、あんまり言わないほうがいいと思うんですよ。

もし、おっしゃるってことであれば、議員のをお借りして大変恐縮なんですけどね、有効に活用してすっきりしたレイアウトにできないかって言ったときに、そういうすっきりしたレイアウトっていうのは、これだれでも言えます。多分朝日小学校の5年生の子だって言えます。ですので、そうであるとするならば、対案をちゃんとやっば示すべきだと思うんですよ。こういうふうに図面で。そうしないと議論はできない。

それと、もう一つね。これ、さっきの話に戻るんですけど、これベストなものってできないんですよ。もともと、ここはスペース、そんなに広くないですから。ですが、先ほど申し上げたように、ここ何年もかかって、商工会であるとか、商工会議所であるとか、関係の諸団体の皆さんたちが集まって、議員さんも入った中で、議論した結果がこういうことになっているということですので、宮本さんが入っているかどうか、僕は知りません。（「そがんとは会派で話ばせんば。委員会ですとうとやけん」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

ですので、これね、ぜひ、そういう、僕はここで、言わないほうがいいってということまで言うつもりはないんですよ。だから、一般質問っていうのは、それは議員さんの自由であり、その神聖な時間でありますので、それを言わないほうがいいってというのは、僕は言うつもりはないんですけど、言う以上は、もう少し中身を考えて、おっしゃられたほうがよいと、私はそういうふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、以前はですね、だから、清本跡地が駐車場になるから、駐車スペース十分にありませんよって言うようなことを言われてたから、ちょっと……

〔市長「だれも言ってませんよ、そんな」〕

それは担当課の方が……

〔市長「言ってませんよ。うそばっか言わないでくださいよ」〕

いや、それで……

〔市長「言ってませんよ」〕

計画にも、ついてるじゃないですか。

〔市長「言ってませんよ」〕

計画、ほら、ここの……（発言する者あり）

〔市長「言ってませんよ、そんなこと」〕

駅周辺整備計画を、新幹線課のほうでつくったときに、駐車場ってなっとったやなかですか。だから、そういうことで、いいかなと思ったけど、そういうことになってたけど、もうこっちがそういうふうに駐車場スペースとして使えんようになれば、こっちをもう少し効率的にせんといかんかなというふうに思って提案っていうことでしておりますので。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すいません、これはもう妄想の世界だと思います。（笑い声）

あのね、要は、我々、そんな一言もですね、そういったことは言ってません。言ってませんし、理事もそういったことは言ったつもりもないし、そんなことは書いてもないっていうことです。しかも、これ、もし万が一、書いてたにしても、それは議論であって、それ決定事項じゃなくて、私が2つ、ここでよく言うように、私見として、こうあればいいなっていうのと、もう一つは決定事項として言うことがあるっていうことと、2つあるんですよ。ですので、議員は、そこは完全に混乱されていて、私は先ほど申し上げたとおり、この清本の跡地どうするんだっていうことを、前の議会で、以前の議会でも聞かれたことがあります。あったときに、私は一言も駐車場にするっていうことは、言ったことがありません。ありませんし、これは、ただ、今の状態があまりいい状態ではないということは、いろんな場で伝えていますので、それはちょっと誤解が相当あられる。これに限った話じゃないんですけども、相当誤解があられるというように思いますし、ただ一般質問というのは、そういう誤解を正す場でもありますので、そういう意味では、ここを駐車場ということについて、市のほうから、それを明確に申し上げたことはないということを改めてお伝えをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、私は整備計画を、その新幹線のほうっていうんですかね。そちらのほうで発注して、成果品が上ってきたのを、見せてもらって、そういうふうに言ってる……

〔市長「どこですか、そこ。見せてくださいよ、そいぎ」〕

だけのことで、よろしく願います。

〔市長「いや、よろしく願わなくていいですよ。見せてくださいよ、そしたら」〕

はい、いや、それは……

〔市長「見せてくださいよ」〕

理事に言ってもらってください。

○議長（杉原豊喜君）

2人で対話をしないように。

○7番（宮本栄八君）（続）

予算もついてから来てるわけだからですね。

〔市長「うそばっか、言うなよ」〕

いや、うそじゃないですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

2人で対話をしないように。

○7番（宮本栄八君）（続）

はい。

次は、交通広場の問題です。（発言する者あり）

今、交通広場——あっ、最近はもう交通広場って言わないですけど、昔は交通広場、交通広場って言ってたですけども。駅の前の——基本的に温泉街から来た車が、ここの駅前がUターン禁止になってますので、ここでUターンするっていうことになっております。Uターンするようになっております。しかし、今のタクシー乗り場っていうのが真ん中より東側にあるわけです。ということで、こうUターンしてこっちに送らなければいけませんけども、ちょっとこっち側に行かんばいかんと。横断歩道も渡らんばいかん、ちゅうことで、タクシーのおり場を、やっぱりこの一般乗降客のほうにも用意せんと、こう曲がれんじゃないかなというふうに思うんですけども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

駅前広場につきましてはですね、公安委員会との協議によって、決定をしとるわけでありまして、北口にタクシーのおり口の確保ということですけども、一般車のおり口と同じところでもらっているというふうなことで、それでいいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

一応、ここ、こっち側には、乗降口って書いてあるけど、向こうでもりられてもいいということですね。そしたら、まあ、それでいいんですけども、結局ここにずっと下から、ずっと電車が来るとき、何台も停まっているときあるわけですよ。一番端っからずっと。だから、やはり1台かは、その、何ですかね、専用で空けとかないと、ずるーっと一般客が停

まっと思ったら、止められんちゅうことになりますので。そこの1台分のタクシーおり場ちゅうのを確保してなくっちゃいけないんじゃないかなと思いますけども、その辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

現状の、先ほど申したことで、一般車両のところでおりにいただくということで、現状はそれで十分足りていると、いうふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

私が見て、電車が来たときにはですね、ここをもうずっと3台ぐらいは停まっているですもんね。そしたら、ずーっとその奥にタクシーのお客さんをおろさんといかんようになるので、その辺は、ちょっと手前でおろせるようにですね、一番近くにおろせるようなかっこうで考えていただきたいというふうに思います。

続いて、駅横の道路のガードのところですけども。前回、このオープン、オープンっていうんですかね、今、閉まっているんですけども、これを開けるためには、前の道路との関係とか何か言われましたけども、前は、ずっと続くわけじゃないので、前の道路とこっちはあまり関係ないかなというふうに自分は思うんですけども、どういう意味だったのか、もう一度お尋ねします。ここを解放しない理由っていうんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

永松川良線のガードのことだと思っておりますけれども、これにつきましては、手前のほうの市道のほうの改良等が十分まだでき上がっておりません。それで、その分が、改良計画が、29年度になっておりまして、それに合わせて開放するというふうなことで、6月議会のときも山口等議員さんのほうにそういうふうにお答えしたというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

前の——わかりました。でも、私からすれば前の道路はですね、真っすぐつながるわけじゃないからですよ、直接関係ないかなちゅうふうに思うんですけども。それは、次の質問のちょっと図面の中で言います。

次、区画道路についてです。今、駅の北側にもともと、もともとちゅうか、今もですけども。川良のほうに行く真っすぐした道がありますけども、今横のほうに道ができております。

それで、市民の方からこっちのほうに行くけど、これはどうなるってというようなことで、ときどき尋ねられるわけです。いや、これはもう区画内の、何ですかね、宅地間の道路じゃないですかねっていうふうな感じで、思って言ってたんですけども、実際のところは、今度は、この道が全くこの道がなくなって、こっちに変わっていくというわけなんですよ。それで、その道をこう行くと、もうここのところから、カクッと曲がって、そして、またこの道に出るっていうことになるわけなんですよ。ということで、いや一体どうなっているのかな、というふうに思ったら、思って、昔の図面を出してみたら、この黒いやつは私が書きました。それが、さっきのこの道になるんですけども、この道がもうなくなって、さっきの道がこれになるっていうことなんですよ。そして、先ほども言いました、ここのガードを開けるっていう、先のほうができるまでって言われるけども、ここはできても、またカクカク、カクカク行くわけであってですよ。あまりどちらかちゅうと、この道がそんなにここと連携しては、動けないんじゃないかなっていうふうに、ちょっと思っているところもあるんですよ。

それで、私が言いたいのはですね、カクカク、カクカク、それでこの先は、伸びる予定ちゅうのが今んとこ全然ないわけだからですね。この道をこっちにこう、もってくるのか、それとも思い切ってこっちまでですね、これを伸ばすようにするのかですね。その辺をもうそろそろ判断をしてないと、今までスーって行けたのが、カクって家の前を回って、またカクッとこう行かんといかんというところについて、市のほうでは、どういうふうにお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今現在、区画整理の工事の途中でありまして、できてしまわないと、はっきりした通行の、その現場のことは、なかなかわかりにくいかと思えますけれども、今、工事中ですので、そういうことで、ちょっと理解をしていただきたいというふうに思っております。（笑い声）

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

今、逆に工事中だから、こっちが利用されて便利なんですよ。できると、結局この家の前のところまで行って、カクッと曲がって、またこっちに、またカクッと曲がってこぼ行かん。この家のところに、こう行って、こう行って、こんばいかんちゅうことになるわけですよ。だから、やっぱり、もう今の時点から、ここにどうスムーズに行かせるかを考えてないと、みんな、カクン、カクン、カクン、カクン、こう行かんといか

んようになると。

だから、まあ、今すぐどうせろじゃないですけど、完成したときには、こっちとスムーズになるような格好には考えられないんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（「誤解のなかごと、ちゃんと答えろよ。おかしなるぞ」）（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

議員、指摘のとおりのごことは、工事が完了した時点では、スムーズに通るようになります。（笑い声）（「そがん計画しとったやろもん。そいちゃんと言うぎよかたいえ」「うん、そうさ」「途中までしよんなかさ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員（発言する者あり）

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、完成したときにはこっちにスムーズなのか、どっちにスムーズなのか知りませんが、カクカク曲がらないで行けるようになるっちゅうことですよね。（「そがん道路ばつくるはずなかけんが、ぴしゃっと言わんけんくさ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（「将来的にまっすぐするて言うとかんや」と呼ぶ者あり）（笑い声）（「共産党さんから教えられようやっか、しゃきっとせんば」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

区画整理内の道路につきましては、一部曲がったりしとりますけれども、将来的には今の道路にうまくすりつけるように計画をしとります。（発言する者あり）（笑い声）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

すりつけるっちゅうか、これにすりつくってことですかね、そこはよくわからないんですけども、それはまた、次回お尋ねしたいと思います。

次は、案内板の設置です。これが、何でここで言うかといいますと、まちづくり交付金っていう、駅周辺整備っていうんですかね、そのお金の中の、1,500万を使って、この案内板を設置しているっちゅうことになるわけなんですよね。それで、昨年度、今500万使ってやって、500万でつくってあるのが、この、最近よく見ると思いますけども、こういう看板なんです。それで、たくさんものをいっぱい書いてあるということで、車から見にくいよって言えば、これは歩行者向けなんですよって、こう言われるわけなんですよね。しかし、この

間通っているときに、この前に車をゆっくりゆっくり運転しながら見てた人もあって、こちらの思いと違って、その利用者っていうのはですね、これを見てるっちゃうことですよ。それで私が思うには、4枚もせんで、このくらいにすれば、結構見えるけどなって、それはもう私の私見だからですね。これはちょっと別としてですね。

また一方、その看板も、前は、さぎの森のところに、観光看板みたいなやつがあったのかなっていうふうに思うんですけども、それがなくなってるので、温泉客の人は、これをよく、このポールの横から眺めてるんですよ。っていうことは、これ結構有効に役立ちようっていうことは、逆に言えば、こういうのが必要なのかなっていうことも思えるわけなんですよ。

それで、結局、もともと、このサイン計画っていうか、この1,500万が、もともとは2,500万だったと思うんですよ。そのころにどう整備しますかって言ったら、えっと、いや、サイン計画をつくって、こう整備しますから待っててくださいっちゃうような感じやったわけですよ。だから、それが、この緑の看板がよくないとは思わないんですけども、そういう話がなくて、もう500万使うとうと。今年度、1,000万使うと。そしたら、本当に、何ですかね、ニーズに合致したもんになるのかなっちゃう、心配をするわけですよ。もともとサイン計画をつくるっていうことだったもんです。それで、このまちづくり交付金が利用できる範囲っちゃうのは、この大体、枠内なのかな、というふうに思うんですけども、しかし、ほかのところにも、案内をせんといかんっていうこともあるし。そしたら、この企画でほかのところもするのか、しないのか。前、市長が言われてた木製看板みたいなことにも挑戦するのか、しないのか。その辺の、何ですかね、ここ以外との、案内の関係とか、ここの中での表示看板と、地図看板とかですね。

ある程度のコンサルに頼んでつくる必要はないですけども、ある程度の整理をしてから整備せんと、もうあと、1,000万、ことし終わるといことになりますので、その辺の——まあ、もともとはサイン計画と言われていたんですけども。簡単な、その辺の整合性のある文章——というんですかね。A3用紙1枚ぐらいでもいいと思うんですけども。そういうのをつくって、何と何と何、ということで、費用を割り振るとか。

また、まちづくり交付金を増額して充実するとか、その辺してかんといかんと思うんですけども。その辺のサイン計画というか、総合計画が必要ではないかというふうに思うんですけども、その辺ちょっとお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

議員のおっしゃるサイン計画は、そもそも、平成18年度ぐらいの計画でですね、コンサルに頼んでつくろうかということで、やっておりましたけれども、武雄市の景観計画、景観条例が19年度にまたできるということで、年度を延ばして、さらに、これは自前でつくろう

ということですね。最終的には、平成21年の12月に、すでに観光案内板設置計画なるものを、すでに策定しております、それに基づきまして、これは、サインの整備方針を定めておりますけれども、現在、それに基づいて、ずっと、まち歩き用の看板設置を進めているところです。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうのをつくってしているということですね。そしたら、ここの歩行用みたいなことに、整備はなっとるということですね。

そしたら、さっき言うですよ、ここを見ているという、こういう大きな地図看板的なもの、その計画の中には入っているんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

今おっしゃいました、地図看板というと、店舗名とか、例えば旅館名とか、いろいろ入ってくる——マップかと思えますけれども、それについては、市のほうでは、設置は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

私はこれしかないから、これを見られてて、全体の観光を見たがって、これを見られているということなので、こういう店舗名を入れるんじゃなくて、何かね、見どころというのを書いた看板というのがありますか、ちゅうことです。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

〔市長「せんでよかばい。看板ばっか。看板倒れになるよ」〕

○溝上営業部長〔登壇〕

先ほど申しあげましたとおり、観光施設等の案内についてはやっておりますけれども、その…

…

〔7番「こいじゃなかよ」〕

こういう看板については……。

〔7番「こいじゃなかよ」〕（発言する者あり）

だから、それについては、今は歩行者用を優先して設置して、必要に応じて、今、計画をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は、この、店舗名を書いてではなくて、ほかに見るのがないから、これが利用されていると。だから、これで、「ああ、あそこはどこだな」というふうに、立体的に——立体的に—というかですかね。そういうふうに見える看板が必要ではないかということを行っているだけであって。これはここにあるから、これでいいわけです。これを近づいて、こうして見ておられるからですね、まあ、言ってるちゅうことで。時々、こう、行けば、出くわすと思います。

そういうことで、そういう計画があるなら、それを、ちょっと——まあ、できるだけ19年だったらですよ、ちょっと見直して、今の——何て言うんですかね。そのとき言われてたのは、区画整理が完成せんと、案内もわからんから、もうちょっと待っててくれよみたいなことを言われとったわけですよ。だから……

〔市長「だいも言うたらんぞ、そがんこと」〕

そういうふうに、今、言っているわけなんですよ。

〔市長「言うわけなからうもん」〕

〔「質問の主旨のわからんけんさい、ぴしゃって言わんば」と呼ぶ者あり〕

〔市長「うそばっか、言わんでください」〕

いや、そう言われたじゃないですか。

〔市長「言うてませんよ。言うたらんことば言うたって、うそつきやなかと」〕（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

言われてる。言われております。

〔市長「言うてません」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

市長がじゃないですよ。

〔市長「言うてません」〕

市長が言ってるちゅう、言ってるわけじゃないです。

ということで、できれば——何を言いたいかというのは……（発言する者あり）こういうのを見たいという要望がありますので、生かしてほしいということを伝えたいだけですので、

よろしくをお願いします。

はい。えっと、次は……

〔市長「議長」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁ありますか。

〔市長「答弁」〕

はい。樋渡市長。（笑い声）

○樋渡市長〔登壇〕

少なくとも、そこに看板があるっていうことで言うと、看板があるからごらんになっているということなんですよね。（「そうそう」と呼ぶ者あり）ですので、それは、観光のニーズというのは、私も何人か聞いたことあるんですよ。僕はあの辺にも住んでいますし、ジョギングも、しょっちゅうしょっちゅう、やっていますので。そういう御不満というのは、私、一言も聞いたことがないんですよ。

むしろ武雄市の場合は、ま、市民の皆さんとかが、物すごく「ここが武雄温泉ですよ」とか、あるいは、「図書館ですよ」というのを、ちゃんと案内して、武雄高校生なんか、そこまで連れて行ったということもあるんですよ。ですので、あんまりこう、看板、看板で言うと、むしろ観光——いや、消してもらって結構ですよ。私、答弁してるんで……（「はい」と呼ぶ者あり）ちょっと消してもらって。（発言する者あり）

ですので、それはね、実際の観光客の皆さんたちからニーズがあった場合には、観光案内というふうにはしたいと思ってるんですけど。実際、武雄にお住まいの方々を、やっぱり住んでおられる方を、まず第一優先にしたいんですよ。

ですので、そういう意味では、私は、ニーズが——少なくとも私どもには届いていない観点からすると、今までどおりにやっていきたいな、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

えーっと——きょう、これだけ、1,500万もかけてつくるならですよ、できるだけ、観光客の方が、こうして寄って夫婦で、こう見られてる状況もありますのでですね……

〔市長「それ、ああけん見いとやろもん」〕

その人がニーズに、ニーズがあるのか……

〔市長「ないです」〕

まあ、あるのか、ないのかというのはですね、また、わざわざ市役所まで言ってくるわけではないからですよ、まあ、独自に調査してもらってですよ……

〔市長「しませんよ。せん、せん、せん。」〕

やっていただきたいと思います。

実際おられますよ。だから、写真も、人が写ってるのもあるんですけども、ちょっと、そういう肖像権の問題もあるからですね。ちょっとこう、全く外して、人がいないのにしておられますけども。実際は、そういうニーズがあります。

〔市長「ありません」〕

よろしくをお願いします。

〔市長「ありません」〕

続いて、道路交通問題について、国道整備の進捗と展望です。

北方バイパスのほう——まあ、大体、年度が 29 年度とかですかね。それに向かって進んでいるっっちゃうことで、S 字カーブのほうも、工事が進んでいるということだったんですけども。最近、ちょっと、私が通って見た限りでは、あんまこう——進捗はどういうふうになっているのかなっていうふうに、ちょっとこう、疑問に思ったもんですかね、改めて、この 2 つについてですね、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、国道 34 号線の北方バイパスについては、二十数年前から、松本前町長さん、あるいは、当時の黒岩議長さんを中心にして、町民の悲願としてやられてたことで。これが、新しい武雄市になって、しばらく停滞をしていたということで、私自身が先頭に立って、この北方バイパスについては、古賀誠先生、これは黒岩幸生議員のお力も大分借りましたけれども。それで、国に、こう届いて、国が、これは早くしないといけないということで、実際、二十数年来の北方町民の、ある意味では、悲願なんですね。それで、今やってもらっているという状況にあります。

数字で言うと、平成 25 年度の進捗率は約 79%になっております。順調に進んでいます。開通見通しについては、平成 29 年度となっておりますので、それは御心配は不要でございます。

それと、35 号線の、いわゆる西谷峠ですよね。これにつきましては、用地買収は、平成 25 年の 8 月現在の数字で 78%なんですね。これ、開通見通しの公表ができないのは、一部まだ、用地取得が、ちょっと進んでない部分があります。これはちょっと、人との関係もありますので、ちょっとその部分が、少しちょっと遅れているということはあるんですけども。

いずれにしても、78%まで進んでいるという状況については、これはやっぱり、旧山内町のときに、これは再三言ってますけれども、杉原議長を中心として、保守系の議員さんたちが、本当に一生懸命、国に働きかけてきたということもありますので、いや、保守系議員です。ですので、そういう意味からして、やっとなんか、ここも、旧——まあ、今も山内で

すけれども、旧山内町時代から、本当に一生懸命されたことが、やっと、ここに結びついてきていると思っています。

いずれにしても、用地買収については、これは、地権者の方々の深い理解が必要だと思っておりますので、これは、末藤議員さんに一生懸命——地元のね、頑張っていたいただきたいというふうにも思ってますし、これが開通することによって、ようやくですね、インフラの意味からしても——北方、武雄は、もうつながっているんですね。だけど、西谷峠というところが、どうしても今まで、わかたつ1つのものになってしまったので、これが改良されることによって、合併して、多分10年後ぐらいになると思うんですけども、本当の意味でつながったということ、旧山内、旧武雄市ですよ。皆さんたちがお感じになるんじゃないかなと思います。

いずれにしても、これについても、政権が変わってよかったです。自民党政権は、いろんな中枢の方々と話をしたときに、私も実際、御案内し——名前はあげませんが、ここの西谷峠を御案内したことがあります。あったときに、「ここは、早うせんといかんね」ということを、おっしゃっていただきましたので。また、私自身も、ま、ここはちょっと、議長のお力を借りなきゃいけないんですけども、先頭に立って、ここの——西谷峠のね。改良の話についても一生懸命頑張ってまいりたい、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

北方バイパスも六十何%ということですかね。（発言する者あり）まあ、それ——地面のほうも、ずっとしてあるから、そういうふうに、こう表に見えないのかもしれないんですけども。（発言する者あり）

そしたら、29年までしなくてもですよ、予算が少し多くつけばですよ、もっと早く改良できるんじゃないかなちゅうふうに思うんですけども。その辺について、短くしてくれと言おうと思っているとか、いや、これでいいじゃないかと思っているのかが、その北方バイパスで——。

もういっちょS字カーブのほうはですね、地権者の同意が得てないということを除いた部分で、どんどんどんどん、先に進められるのか、そこが解決せんとか先に進められんのか、その2点、ちょっとお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

世の中、バランスの問題だと思うんですね。（「そう、そうさ」と呼ぶ者あり）バランスの問題。ですので、私たちとすればね、この北方バイパスも、20年ぐらいかかっているわけですよ。ですので、主に北方町民のお気持ちを考えた場合には、やっぱり一刻でも早くという

のがあるんですよ。

ですが、これは、国全体の予算の配分があります。ですので、言うのは易しです。言うのは易しだけど、その固い岩盤をね、きりでこう——、マックス・ウェーバーが言ったように、一つ一つ穴を空ける作業を、今やっているんですよ。ですので、それはちょっと、温かく、やっぱ見守ってほしいと思うんですよ。何も動いていなかったら、御批判を受けるのは当然ですけども。我々としては1日も早くというのは、当然のことながら思っております。

もう一つの西谷峠に関しては、これはもう、バランスの問題なんですよ。全体の予算の配分の話もあります。民主党のときは、ここは、極端に減らしてたんですよ。ですが、自民党政権になって、深い理解があって、ここは何とかしなきゃいけないということで、今やっておりますので、そういう意味でも、我々としては、一刻も早くということは、ありますけれども。だから、この——何ちゅうんですかね。用地買収が難航しているからと言って、何もできないというわけじゃありません。実際に今、うちも、事業は78%は進捗してますので。

ただし、公表ができないということについてはね、それは実際ほかの事業も、みんなそうなんですよ。ですので、そこは、我々としては、一生懸命——まあ、先ほど申し上げたように、地権者の御理解を得ながらね、この西谷峠の改良の話については、一生懸命進めていきたいなど、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。

続いて、次は、市道関係の整備です。それで、松原交差点の、第1番目は信号機です。

今、この辺が、見通しが非常によくなくなったせいかですね、何なのかよくわからないんですけども。まあ、ここに「とまれ」で書いてあるのが、下から少し高くなっているからか、よく知らないんですけども。最近、ちょっと、事故をよく見かけるようになったわけなんですよね。だから、前、狭かったから、物すごい注意してたが、広々なって、ちょっと安心しているのか、そこはちょっと、わかりませんが、まあ、そういうふうな状況になると——ということで。これが、向こうの温泉線て言うんですかね。武雄温泉線のほうにも広がっているんで、結局は、この区画整理が全部終了せんと、通常の信号機ができないのか。ある程度、昔は、立てる足場がないということだったんですけども、今は足場はあると思うわけですね。足——立てるところですね。だから、その辺が途中でつくものなのか。もう、最後の最後しか、正常な通常の信号機がつかないのか。その辺の見通しについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

松原交差点の改良工事につきましては、土地区画整理事業と、県の街路事業、この2つによって整備をしております、県の街路事業と調整しながらですね、交差点の改良までしていかなければならないということで、平成27年度に施工する計画でありまして、それまでは、信号機がつけられないと。そのときに一緒に信号機をつけるというようなことになっております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

27年ていうのは、もう、区画整理の完了ということになるんですかね。それで、その区画整理の完了がずれ込めば、まあ、同時に信号機もずれ込むということに、まあ、なるわけですよ。ということであれば、できるだけ、ずれ込まないように、よろしくをお願いします。

次はですね、重要里道の市道化ってということで、甘久トライアル横の里道ということで。

私に——その事故があったときには、行ってないんですけども、甘久の方が、今何かトライアルの前ところで、年寄りの人がつまずいて倒れとんさあ、と。そいぎ、どがんなっとうとですかという電話のあったもんで、市に電話したら、そこは里道ですというようなことだったんですよ。そして、まあ、ちょうど電話しとったら、何か、親切な方がおられて、車に乗せて病院に連れて行ったということで、まあ一応、それはそれで収まったとですけども。

やっぱり、頻繁に利用している里道というんですかね。その辺は、区の——区道になるのか、ちょっとわからないんですけども。その辺の、この——何ですかね。責任とか、そういうのもあってですよ。大いに、公共的に利用される里道は、2、3人の——奥の里道と違ってですよ、ある程度、市道化するか、市道化せんでも、何か管理をせんといかんかなというふうに思うわけですよ。そいぎ、今の時点でも少しは、何か、アスファルトを埋めたような格好にしてるんですよ。これは、市がしてるのか、どうなのかはわからないんですけども。

ここは、もう、大きな段差はないんですよ。年寄りの方は、微妙な段差が危ないということですね、そういうことになったということなんですけども。また、たまたま私が買い物に行ったときに、ちょうどこの里道のところが川のような感じになっとなるわけなんですよ。だから、ちょっと、私も足をまくり上げて、こっち側に来たんですけども。

やっぱり、重要な里道というのは、市道化をですね、していただいたほうが、よくないかなというふうに思うんですけども、その辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、あんまり、個別箇所のことが、一般質問になじむというのは、実はあんまり思っていないんですね。これは、市政事務の——一般的な市政事務に対する、多分、質問だと思いますので。ただ、質問するのは、自由ですので。

まあ、その観点から申し上げますと、この件については、すでに、もう吉川議員さんと話を——まあ、きょう、吉原議員で書かれていましたけれども。吉川議員さんと、もうすでに、調整を始めています。そして、地元の皆さんが、どういうふうにお思いなのかということについては、もうすでに、着手をしています。

市道化の要件というのは、武雄市の市道認定基準でいうのがございますので、それに合致するということが大前提。次の前提が、実際に、ここをお使いになられている方々の意向であるとか、周りの皆さんたちのお気持ちであるとか。そういったことを兼ね備えないと、市道認定でいうのは、できないんですね。

ですので、いろんな方面から、地元の議員さんを中心として、地元の皆さんともう、協議を開始をしております。御心配、本当にありがとうございます。(笑い声)(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

7番宮本議員

○7番(宮本栄八君)〔登壇〕

よろしくをお願いします。

次にですね、次は、震災災害対策についてです。

まあ災害というのでは、まあ、IS値ですかね。そういうようなことで、大型施設のあれもありますし、公営住宅の長寿命化ということもありますし、避難所と六角川ちゅうことで、そのくくりで質問します。

それで、市庁舎については、何か、1棟建てとか3棟建てとかあるんですけども、その詳細は要らないんですけども、その辺のこう——何て言うんですかね、合併特例債の見直しなんかもあるような格好になっておりますので、あらかたの、こう——年数、年限というかね。そういうのも、もう決めてあるんじゃないかなというふうに思うんですけども。その辺の概要についてですね、市庁舎と体育館と白岩公園の合同施設っていうかね、その辺について、お聞きしたいと思っておりますけども。

まあこれは嬉野のほうのですね、そういうふうな、体育施設と文化施設の合同ですけども。まあこれは——何て言うんですかね。(発言する者あり)ばらばらになっている。私は、アリーナのところに椅子が出てくるのかなというふうに思ったんですけども。まあ、こういう形もあるのかなというふうに思うんですけども。

今、わかる範囲での——市民の方も知りたいと思っておりますので、この辺の改築計画について教えられる分を教えてください。(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件につきましては、暫時というよりも、決まってから、きちんと報告するのが筋だろうと思っていますので。これ、ちょっと、以前申し上げたことと全く重なるんで、ちょっと、甚だ恐縮なんですけれども。

この市庁舎については、補強、現地建てかえ、そして移転建てかえの3パターンがあります。補強、現地建てかえ、そして移転建てかえの、この3パターンがあって、今、それぞれのメリット、デメリットっていうのを、今、中でも話をしています。

私の、個人の――これは、新聞にも載りましたけれども、これは議会でも申し上げました。さまざまな場でも申し上げていますけれども。市庁舎においては、現在の場所に建てかえるというのが一番いいだろうということです。これが、1棟になるか、複数になるかは、ちょっと別にしても、この歴史ある、この土地に建てかえるということが、一番望ましいんじゃないかというのが、私の意見です。役所は役所の、副市長以下の意見があります。それと、これ、最終的に決めるのは議会でありますので、その中で、ぜひ、また御議論をしていただきたいというように思っていますし、もう一つは、市民の検討委員会もありますので、そういう御議論も、十分に踏まえたいと思っております。

その中で、先般、川端通りの皆さんたちがお越しになりまして、ぜひ、今の場所で建てかえをしてほしいという要望が、公式にありました。飲食業組合の皆さんたちからありましたので、この御意見も、大きな御意見として承る必要があるだろうと思っております。

いずれにしても、方針が決定をすれば市民の皆様方に――ただ、その前の議論というのは、十分にさせていただく必要があると認識をしておりますので、これは、大変恐縮ながら、前に私が申し上げたことと、何もまだ変わっている状況にはありません。ですので、今後のスケジュールについても、方針が決まらないと、いつまでというのは――それは、建物の耐用とかもありますので、現段階で私が申し上げることはできないということになります。

それと、もう一つ。体育館、文化会館につきましては、これも大きく、佐賀新聞を中心として載りましたけども。あくまでも、私の私見として、ばらばら、ばらばら、つくるよりは、私とすれば、体育館と文化会館は、少なくとも大ホールは、セットにするのがいいだろうという思いから申し上げたにすぎません。これから、これについても、具体的な方向性、方針性というのは、別途改修計画を、これつくる必要がありますので、その中で、議会、市民の皆さんと御議論しながら、よりいいものにしていきたいなというように思っております。

競輪場についても、ここに「(3) 競輪場」ってありますけど、これも同じ考えなんです。今のままでいいとは思っていませんけれども、どういうふうにすべきかというのは、全体の議論が必要ですので、まず、ここは、議論をしてもらおう。ですので、この3つの件に関して、特に(3)の競輪場に関しては、私はよく、100の議論よりも1の実行って申し上げ

ますけど、これは、1の実行よりも100の議論が、ここは必要だと、これは思っておりますので、これは、十分に市民合意をきちんととりたい、このように考えております。

いずれにしても、この3つについては、十分議論をして、議会のほうで、またさらに議論を深めていただいて、必要な方針を一緒になって定めてまいりたい、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

これから、慎重にということ。まあ、特例債の計画ができていますので、そういうのもできていかなというふうに思っておりましたけども、まあ、一応そういうことです。

あと、その競輪場についてはですね、これは、特例債とか、使わなくちゃいけないと思うんですけども。競輪場については、今7億円ですかね。8億円ぐらい持っていると思うんですけども。8億円、全部使うと、1億足りるときもあつたりするかもしれませんので、その辺は、その基金を使って、しようと思っているのか、もう、借り入れをしてしようと思っているのか、その辺で今、考えてあるなら、ちょっとお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

競輪場につきましては、まだ、どんな施設にするか、そういうことで、金額等も全然出ておりませんので、そこまでの議論等はやっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

できるだけですね、早くお願いしたいと思います。

結局、前から言っているように、デジタル化とかが全然できないからですね、作り直さないと、ちょっと今のニーズに合わんとじゃないかなというふうに思います。

次に、長寿命化計画です。公営住宅のですね。これは、私がずっと前から言っておりますと思いますけども。

結局、武雄市の場合には、ちょうど、建てかえのところが、こう密集して合併したのもありますけども、密集しているっちゅうことで、ほとんどが、もう建てかえに来ているということですよ。だから、相当の金額がかかるだろうということ。

それはもう、ずっと、割っていけば、それはどうにかなるのかもしれませんが。その辺の全体像が見えんと、まあ、今みたいに、次はどこですって、次はどこですって言って、それで、あとはどうなっとうって。いやそれは、わかりません、みたいな感じに、こうなる

もんでですね。

もともと、前も出しましたけど、平成 14 年のストック計画では、黄色のこの維持管理ってというのが、たくさんあったんですけども。もう今度の 21 年のストック計画では、もうほとんど建てかえになつると、いう状態になつとります。それで、まあ、もういっちゃんの観点として、まあ県のほうが、武雄に併設してある建物については、用途廃止とかですね。武雄のほうの県営住宅は、一部廃止とか、そういうのもありますんで、そういうのも含めて、もう計画もせんといかんかなつちゅうふうに、まあ前にも言ったと思いますけども。今インターネットで公営住宅長寿命化計画ってすると、もう各自治体のやつが、ばーんと、こう出てくるんですよ。そいけん、どれもこれも、ちょっと見るのは大変ですので、上のほうから、ちょっと見て、春日市の長寿命計画ということで。

まあ一番大切なのは、もうずっと、ここよりも結局、建てかえの事業のスケジュールと建てかえの概算費用って思うわけですよ。やけん、もう、まあいろんなことよりも、結局その、春日市では建てかえ物件の年次計画が、もう、すぽっと、こう出てるわけなんですよ。そして、金額も現時点での計画に基づき、建てかえ概算を計算したと。それで、ずっとこうやって 60 億ですかね、になつとるわけなんですよ。

だから、武雄市のやつが、なぜ進まんやっただかちゅうのは、そのやっぱり、財政計画が、そのストック計画にひっついてなかったからかなつちゅうふうに思うんですけども。

〔市長「違いますね」〕

今度の、3月までにつくられる長寿命化計画には、まあ当然、このスケジュールとですよ、財政計画ちゅうですかね、それは載るのかなと。まあ前は、それがなかったから進まなかったんじゃないかなつちゅう思うんですけども、その辺について、こういうスケジュールまでですね、載せてもらいたいんですけども、今のそちらのほうのですね、考えはどうなのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

こちらのほうから（笑い声）御回答したいと思います。

まずですね、相当誤解があられるのは、その財政計画と、このストック計画がリンクしてないから進まなかったっていうのは、これは嘘です。そうではなくて、我々は 360 度、例えば子育てであったりとか、福祉であったりとか、道路の新設であったりとか、補修であったりとかっていうのを、あらゆる観点から 360 度、優先順位をつけて、限られた財源の中で、地方債を起ししながら、あるいは合併特例債を使いながら、いろんな事業の組み立てを図るんですよ。そういったときに、市民のニーズ、あるいは議会の御要望等から考えたときに、やはり 2 つありましてね。1 つが大きな意味での福祉、これは子育ても含めてです。その予

算の確保と、もう一つは東日本大震災の前から、私どもは申し上げてましたけれども、必要なインフラの安全・安心化をきちんと進めると。これは公明党さんも非常に強く、前からおっしゃってますので、そういったことも含めて、我々やってきたということで。

もう、ほんとに申し訳ないんですけれども、どうしても、そのほかのことについては、少し、やっぱり優先順位がね、大切じゃないとは申し上げません。少し、やっぱ下がるということは、これはいたし方ないことだと思っています。その中で、我々としては、公営住宅もちゃんとやっていこう、ということを思っていますので。財政計画とそのストック計画がリンクしてなかったから、進まないってということについては、それは誤解であります。

ただ、議員の御指摘のように、まあ計画的にね、行いうってということは、それはそうですけれども。これは以前、末藤議員さんから、再三、御質問を賜っておりますけれども、私どもは議会の場で、そういう基本的な方向性っていうのは、何度も申し上げております。そういった中で、よくこれも議会と、よく相談しながら、着実に公営住宅の整備改修等については進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、旧武雄市——は、まあ、やり方としては1棟ずつ、ずーっと、こうしてきたちゅうわけですね。だから、それはそれでよかったと思うんですけども、その状況が状況っていうですかね、こういうふうには、ここに固まっているから、これずーっと、分散していれば、前みたいに、ずーっと、こうしていつているんですけども。そうならないから、ちょっと困っている——困ったなちゅうことを、今言ってるわけで。まあ、それにあたって、まあ1カ所に2年かかっても、ずーっと10カ所はないですけども。10——20年もかかるというような格好で、いやもう、鉄筋から木造に変えて単価を下げるとか。何か、そういうふうな格好に、その、せんといかんかなというふうに思っておりますが、まあ結論的には、よそ並みちゅうか、ここで言えば、春日市的な把握ができるような形のものができるのかどうかを、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、先ほどの答弁と、ほとんど重なるんですけども、我々としては、こう計画をしたっていうことはあるんですけども、これから、例えば、交付税が物すごく減らされる時期に突入してまいります。ですので、そういった中で、幾ら計画を立てていても、そのとおりに進むっていう保証は1個もないんですよ。それは、僕は、むしろ無責任だと思っていますので、それは実際的前提条件、財政的前提条件が出てきたときに、きちんと、ここは、次は

こういうふうにしますと。

それと、もう一つが、昭和 40 年であっても、私もほとんどすべての住宅は行きましたけれども、実際その傷み度の具合とか度合いというのは、その場所に行っても全然違うんですよ。昭和 40 年につくられたからといって、全部一緒にしなきゃいけないのは、それはありません。ですので、そういった実際の——それで居住者の皆さんたちも、実は、ほかの場所がいいという方々もいらっしゃるんですよ。

ですので、そういったことを総合勘案しながらね、やっぱりこう、できるところから、ちゃんとやっていくということだと思います。これについては、私は、これ——多額の予算がかかる、市民の貴重な税金が費やされるということになりますので、これこそ議会の場で、きちんと、まあ以前、末藤議員さんに詳しく回答したように、議会の場できちんと御回答——説明をしてまいると。できれば、この一般質問の場で、これテレビで皆さんごらんになっていますので、そういった中で、きちんと回答してまいりたいと、このように考えております。

これは、あつたほうが良いということはあるんですが、多くの計画は、絶対そのとおりになりません。なりません。ですので、その計画よりも、私はその一つ一つの課題を、その時点できちんとお話をするっていうことが、この不確実な時代の中で求められていると思いますので、今までどおり、そういった姿勢でやってまいりたいと、このように考えております。もとより、例えば、大野住宅であるとか、まあ、いろんな住宅の方々から、いろんな声が直接、私どものほうに参ります。そういったお声もね、十分にそんたくをしながら進めていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番宮本議員

○7 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ずれるのはですね、私は、それは仕方ないと思うんですよ。区画整理だって 23 年が、ずっと 25 年、27 年で、こうずっとずれてきますけども。（発言する者あり）大体、その流れの理由があつてずれるっていうのは、みんな納得できるのかなと。

〔市長「納得できませんよ」〕

でも、先が何も、こうわからんちゅうのはいかんかなちゅうふうに、ちょっと思っております。よろしくをお願いします。

〔市長「いや、よろしく願いされません」〕（笑い声）

はい、次ですね。次、避難場所の整備です。

私も、防災とか何とか、あんま詳しくないんですけども、まあ、毎回言ってますように、私の家の横の御船が丘小学校が第 2 避難場所になつると。しかし、ちょっと見れば、真っ黒しとうと。特に、そういうのを感じるのは、白岩なんか 10 時にば一っと電気が消えるわ

けですよ。だからこう、闇のところちゅうの、さっきまで、こう明るくてにぎやかだったのが、ばーっと全部消えると、何かもう闇みたいに、こうなってる——いうところですよ、ま、最低限、1灯でも2灯でも、例えば、まず、公民館に逃げる、公民館の第1避難場所。そして、小学校の第2避難場所ぐらいにはですね、最低1灯ぐらいは停電しとつてもですね、ま、行けるような格好にしとかんと、もう最低限、それはせんといかんじゃなかのっていうのはずっと、私が御船が丘の横に住んでいるからですね、そういうふうに思うわけなんですよ。

御船が丘も、表の入口のやつが10時に消えるやつを、12時まで学校長の判断で以前してもらったこともあるんですけども、それ以降は真っ暗になるんですよ。それで、まあ、ちょっと、これが、そういうことなんですけども。佐賀の総合グラウンドに行けば、もともと、こういう普通の外灯があったんですよ。その先のところっていうんですかね、ずっと合間みたいなのに、ソーラーの外灯が、ずっとやっぱこう、防災のためと思うんですけども、急にこう、つけてあるんですよ。だから、やっぱりそういうような格好は、みんなが考えることじゃないのかなと。

だから、武雄市でも、第1避難所、第2避難所ぐらいはですね、ソーラーの電気で、停電しても、ま、周りが見えるような格好にできないかなというふうに思いますけども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ソーラーの発電を全部否定するわけじゃないんですけども、例えば雨であるとか、雨天時であるとか、曇天のときっていうのは、これ、ほとんど使い物にならないんですよ。というのも、これ、ちょっと議員の——を、ちょっと活用させて——甚だ恐縮なんですけど、これぐらいの大きさだと、実際、今の技術だと、蓄電っていうのはなかなかできないんですよ。ですので、しかも、物すごくまたコストが高いんですよ。

ですので、確かに理想とすれば、ま、こういうのはあってもいいのかなと思うんですけども、それよりも武雄市の場合は、これ、黒岩議員を中心として、外灯がないところっていうのは、まだたくさんあるんですよ。その中で、限られた予算の中で、こういったものをつけるっていうことは、僕は大事だと思うんですけども、それ以上に無外灯地区ですよ。そこにきちんとやっぱつけるということ。

特に、周辺部がそういう状態になっていますので、私としては優先順位を、限られた予算の中でする以上は、少なくとも私どもの方針は、無外灯地区に——これは、さまざまな御質問があります。古川盛義議員からもありますし、ね。朝長議員さん、山口等議員さん、上田議員さん、前、ありましたけれども、そういった中で私たちは予算を重点配分してまいりた

いと、このように思っております。

ただ、ここは議員の御指摘っていうのを、非常に私も、ランニングしてますので、御船の近くが暗いなというのは、それは十分承知をしております。承知をしておりますけれども、それも優先順位——東川登なんか、もっと真っ暗です。若木も、もっと真っ暗です。ですので、そういうところも、同じ武雄市ですので、そういった中で周辺部に私は重点配分する必要があるとだろうという認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

まあ、まちづくり交付金で武雄町を外灯いっぱいつけるということもありますけれども、私の住んでいる野間は、もうずーっと電柱2つ置きぐらいに、ま、外灯をつけているんですよ。でも、そっから、もう曲がったら真っ暗になるっちゃうことと……（発言する者あり）ま、停電の時期ちゃうことですね。だから、ソーラーじゃなくて、停電のときにも照明がないといけないんじゃないかなというふうに。この間も避難訓練があるということだって、ま、台風で中止になったんですけども、夜なんか訓練とか多分できんと思うわけですよ。今の状態じゃ。

市長は以前、懐中電灯をみんな持ってって言われますけども、何かほかののを見れば貯金通帳だって持たんで出るとか言うともあるわけですよ。だからやっぱり……

〔市長「何ば言いようと、全然違うたい、何で、ちょっと、私の言うたことどがん…」〕

そういうのは、一つ一つ設定してやったほうがいいんじゃないかというふうに、ちょっと提案をしときます。

〔市長「それ、貯金通帳って何ですか、貯金通帳って」〕

次は、六角川調整池の件です。

〔市長「ちょっと、それ暴言ですよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○7番（宮本栄八君）（続）

六角川調整池の件……

〔市長「ちょっと、議長」〕

ちょっと、後で——。それ、何——（発言する者あり）

〔市長「ちょっと議長。議長、それ暴言ですよ」〕（発言する者あり）

〔市長「議長」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁を求めていますか。(発言する者あり)

○7番(宮本栄八君)(続)

はい。

○議長(杉原豊喜君)

はい。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、それはさすがに暴言だと思いますよ。貯金通帳云々と私の言ったことを、こう、ひもづけてね、お話されるっていうのは、それは、私はちょっと心外です。めったなことでは怒りません、私も。ですが、非常に、これは、甚だ心外です。何で貯金通帳が私のところに出てきたのかね。

私は少なくとも以前から、特に大震災で学んだのは、議員の有志の皆さんたちと、本当に何も無いところで、我々は、ボランティア活動をさせていただいたときに、やっぱりこれは、身をもって痛感した。当時の牟田議長さんも同じことを聞かれましたけれども、身をもって痛感したのは、やっぱり夜にあったときっていうのは、本当に全部停電になるんですよ。どんなやっても。ですので、自分の身は自分で守んなきゃいけないというのを、御家族を亡くされた方々から聞いたのは、絶対に懐中電灯は枕元に要ると。

それと、僕らが気づかなかったのは、ガラスが全部割れるということですので、スリッパが絶対要ると。スリッパが要るっていう、これはテレビにも出てました。ですので、懐中電灯とスリッパと、あと食料ですよ。食料。リュックに入ったその食料っていう、この3点セットが絶対に要るっていうことを、これ、いろんなテレビの場でも言いましたし、それは、私は申し上げました。ですが、貯金通帳とか何とかって私、一言も言ってないんですよ。まあ、議員はそういうお気持ちで言われたことないと思いますけれども、そういう、ちょっと誤解を生むようなね、発言というのは、ちょっと私はいかなものかなと思っております。ですので、それとさっきの御質問移りますけれども、何も、私は市内の中でね、暗いということを、何とかしなきゃいけないっていうのも思ってますので、それもあわせてお伝えをしたいと。このように思っております。

○議長(杉原豊喜君)

はい、宮本議員さん、誤解を与えるような質問には注意してください。

〔7番「はい、はい。はい。いや、あの」〕

はい。7番宮本議員

○7番(宮本栄八君)〔登壇〕

市長が貯金通帳を言ったちゅうことじゃなくて、何かテレビとか見れば、貯金通帳も、もう持たずに、そのまま手ぶらで出なさいっていうふうな話もありますからちゅうことで、言いましたので。

○議長（杉原豊喜君）

そこはいいですから、誤解を与えるようなことには注意をしてください。（発言する者あり）

○7番（宮本栄八君）（続）

すいません、はい。はい、すいません。

○議長（杉原豊喜君）

はい。

○7番（宮本栄八君）（続）

はい。だから、ちょっと私が、あの原稿を見ないで言ってますんで、ちょっと。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、質問を続けてください。

〔市長「原稿見て言ってください」〕

○7番（宮本栄八君）（続）

言葉があれして——すいません。

六角川調整池です。整備の具体化、どうなるということです。一応、まあ、皆さんの努力と言うんですかね。そういうことで六角川の、まあ30年計画っちゅうのが、立てられたわけですよ。30年計画の中に、この——大坪さんと言っていいのかどうか、わかりませんが、その辺の地域を、土地を利用して——調整池をつくるっちゅうことは、認められたわけですよ。でも、これが30年計画だから、ちょっといつになるか。まあ30年後なのか、どうなのかよくわからんと。そして、まあ、ここにちょっと書いてありますけども、六角川の中流部、牛津川下流部に洪水調整池を新たに整備します。また牟田辺遊水池の改良を行いますというのは、大体、六角川が、この普通の六角川と牛津川が合流して、2つを管理しているわけなんです。それで、この牛津川のほうは、多久に牟田辺遊水地っていうのを、こうつくってあって、さらに牛津川遊水地っちゅうのを、今つくっているっていうのを、こう書いてあるわけですよ。だからまあ、ある意味、着々と、こうやっているっちゅうな格好になるわけなんです。

それで、こっちのことについては、まあ、これがこっちのことかわかりませんが、国管轄区域外に整備する場合には佐賀県と十分な連携を行いますというのが、この六角川調整池のことを言っているのかよくわからないんですけども、こっちの進み具合っていうんですかね、この何か、書いてあることが明確で、ちょっと、こっちのこと不明確に思いますけども、今後、まあどういふふうにしていけば、その30年計画の中の、提案を具体的にしてもらいような格好に持っていけるんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この六角川の調整池の話については、私がこういうことができるんではないかということ、これは実は松尾技監と、以前まちづくり部長だったときに、ちょうど3年、4年ぐらい前かな。もう水害があったときに、行ったときに、もう腰まで、ねえ、水につかっと思ったよね。そんなときに、これはポンプだけじゃ、だめなんだということで、今あるものを活用して何か、これできないかということで、以前——まあ議会でも話題になったようですけども、この六角川の調整池の話を、ぜひやりたいということで。これ地権者の皆さん方がいらっしゃいます。それと周りの地元の地区の皆さんたちもいらっしゃいます。ですので、今、非常に複雑な交渉を、実はしております。

ですので、ちょっとこいですね、あんま、まぜこぜにせんでほしかったですよ。これについては、これ信頼できる議員って言うと恐縮なんですけれども、この件に関しては、石丸県議さん、稲富県議さん、そして地元の松尾初秋議員さん、山崎鉄好副議長、そして山口昌宏議員さんを中心にして——ほか、漏らしてないですよ。 (笑い声) うん、ああ、ですので、そういった方々ときちんとネットワークを組んで、この調整を進めてまいりたいと思っておりますので、ほんとにこれは、御心配なさらずにしてほしいと思います。

それともう一つ、これ大事なのは、これかなり——全国のダムもそうなんですけど、物すごく実は複雑な調整なんです。ですので、ここで軽々に私自身が、これ決める権限もありません、実は。それと地権者の方々の深い御理解もあります。そういった中で、なかなか、これは申し上げられないっていうのは、市民の皆さんたちも、ぜひ御理解をしていただきたいと思います。いずれにしても、この件については、私もこれは山口昌宏議員の質問に答えて、3期目の出馬のときに、六角川の調整池っていうのを、わざわざ申し述べましたので、これについても、先頭をね——石丸県議さん、稲富県議さんのお力など、そして地元の先ほど申し上げた、市議会議員さんのお力を借りながら、一生懸命やってみたくて、このように思っております。気持ちとしては、ここも一日もね、早くって思っていますけども、これも拙速になると、ほんとにできるって言ったものが、一瞬でパアになるということが、全国のダム事業を見てても、そういう例がままありますので、そこは慎重に。私の取り柄は慎重さだけですので、そこの私の取り柄を十分に生かしていきたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

ま、結論的には国も何かやってて、地元もやって——地元はわかってるんですよ。国のほうも、何かやっているんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれ、先ほども申し上げたつもりでいるんですけども。

これね、まず地元の、その合意っていうのを国は見守るんですよ。ですので、八ッ場ダムだって、みんなそうなんですよ。地元の合意形成がとれて、国としては必要な後押しをするっていうことが——こういう、特にダム関係は、それがすべてと言っておかしくないんですよ。ですので、そういう意味では、国は今まで、我々地元の動きをね、見守っていただいていると。

それが、じゃあ違う方向を向いているかといったものについては、これは民主党政権を私は評価しますが、民主党政権のときから、これはぜひ、やったほうがいいよね、ということ。それで自民政権になっても、直接——幹事長室に、まあ、これは杉原議長のお力を借りましたけれども、自民政権に申し上げたときには、これも西谷峠のバイパスと同じで早くやりましょうね、っていうことは聞いておりますので、武雄市議会のお力を借りながらね、これも進めていきたいと思えます。それで地元が固まれば、まとまれば、国としても必要な予算はつけたいということは、直接聞いておりますので、温かく見守ってほしいな、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい。残り3分になりましたので——学校の整備についてです。それで一応、少し入ってきますけども、武雄小学校の車道の改良です。

こちらのほうから、こう回って、体育館のほうに今度行かんと、いかんということで、こう一段下がらずにですね、この辺で、ここに行けんかっていうことで、まあ考えているんですけども、それについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長（「来年、市長選挙、出たら」と呼ぶ者あり）

〔市長「市長選挙出てください」〕（発言する者あり）

○古賀教育部長〔登壇〕

学校の管理道路ですけども、現在4メートルで、幅ですね、4メートルで計画しておりますけども、管理道路をあまりに広くいたしますと、車のスピードが上がるということもありまして、逆にですね、児童の安全が脅かされるという事態も想定をされますので、現計画でいきたいというふうに考えております。

〔市長「それで、いいです」〕

○議長（杉原豊喜君）

7番宮本議員

○7番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい。本当はずっと、あるんですけども、一応、中途半端なると、またそちらにも迷惑をかけますので、以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、7番宮本議員の質問を終了させていただきます。

23番 黒岩議員（発言する者あり）（笑い声）

○23番（黒岩幸生君）

すいません、議事進行をさせていただきたいと思っておりますけども。

実は、先ほどですね、うちの副委員長、建設委員会ですけども。うちの副委員長さんが、悩んで、私をちょっと呼びつけられたわけなんですね。と申しますのは、駅前広場と言いますか、駅前開発ですか、そのことについて建設委員会で、これだけ審議してるのに、一般質問で取り上げていいのかわちゅう話をされたんですね。私、最初聞いたときに、まあそら、その人が、取る人のモラルの問題だから、（笑い声）まあ仕方ないんじゃないか。一般質問、何でも言っていいですからね、そう言いました。

しかし、ここ、議長、整理しておきたいのは、まあ、もう少し深く考えればですね、難しい問題かもしれませんが、本会議中心主義でなくて、うちは委員会中心主義をとっているんですよ。（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）だからある程度審議すれば、委員会に回すんですよ。だから専門委員会って、そこいろいろ、こう調べていくと。いうことで、行き来しとるわけですよ。実際、委員会はそう機能しとるかどうか、知らん——うちは少なくともしてるつもりですよ。だから、駅前、広場前、いろんな意見を言いながら、1つの与えられたものとしてね、我々はね、いろいろ審議しよる。（発言する者あり）議案がなくても、この前のと、あいどがんなつとや、とかね。あるいはまた、議案がなくても執行部のほうからね、これ、こう、今こういう状態ですよと来て議論していくんですよ。

そのため、各委員会が一生懸命働いて、だから副委員長は悩んだと思うんですよ。こういうのを出していいのかと。だから、その質問は、いろんな仕方があると今朝一番に言いましたように、皆さん1票の重み抱えていますからね、いろんなやり方あってもいいです。

しかし議長さん、そこはある程度ですね、まあ、議会改革を先にするのか何かわからんですけども、まあ枠は、はめられんにしてもですね、例えば、一般質問するにしても、いろいろやりよるから、ただ質問を聞く。執行部は言う。そして、それを、ただ書く。いかにも自分がしているように見せる。いろんなやり方あるでしょうね。（笑い声）

しかし、そこはね、議長ね、やっぱり議会制民主主義としてね、きちっと整理をしとかなければ、野放しなると思うんです。本会議中心主義と委員会中心主義。我々は、やっぱ

委員会中心主義をとっているっちゅうことをね、しっかり肝に入れて、議事運営、議事進行にあたっていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

[25番「関連して、いいですか」]

関連はなか。

(「委員会でしょうて知らんもん」と呼ぶ者あり)(発言する者あり)(「議事進行に関連している)」と呼ぶ者あり)

○議長(杉原豊喜君)

23番黒岩議員の先ほどの議事進行につきましては、精査して、後で御答弁申し上げたいと思います。25番平野議員

○25番(平野邦夫君)

23番黒岩議員の提議には賛成なんですけども、委員会付託主義ですよ。本会議をし、委員会付託すると。そうすると4つの委員会で、所属してない委員会でありますとね、また先ほど宮本議員が出したのが、「えー」っていうのは、我々、知る機会がないんですよ。ですから、その精査していく段階で、まあ精査していただくっちゅうことですから、その際に、ここまで到達していると、委員会の審議で。執行部の計画もここまで来てるということで、委員会で論議になっている内容であればね、ここまでは全議員に知らせよう、と……(発言する者あり)

[23番「求められればね、する」]

[市長「うん」]

いうことも含めて、精査されるのであればね、全議員の知る機会も同時に与えていただきたいと……(発言する者あり)いうのとあわせて、関連させて私のほうからお願いをしておきたいというふうに思います。(「そりゃ、願いじゃなかもん」)

[23番「そいけん求められればね」]

(発言する者あり)

[市長「それ、議事進行やなかろうもん。ルール守りましょうよ」]

(発言する者あり)(「今の答弁じゃなかろ」と呼ぶ者あり)(発言する者あり)

[市長「うん」]

(「議事進行に対する議事進行やけんが、それはおかしかろ」と呼ぶ者あり)

(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

23番黒岩議員

[市長「ルール守りましょうよ」]

(発言する者あり)

○23番(黒岩幸生君)

いやいや、今から特にですね、皆さん方、おいはせんちゅうわけやなかばってん、ね。1年向かっていきますね。そういうとき、特にだれでもやっぱり——ね、パフォーマンスをします。そういう中だからこそですね、武雄市議会だって言えるのを、やっぱり放送せんばいかんと思うんですよ。全国注目あるところで。

だから、今言われたように、平野議員さんと全く一緒ですので、そういうのは委員長にですね、質問していただければ。今、こういう段階ですよ、と。今、駅前広場が、建設委員会が審議しているっていうのは、皆さん御存じですよ。ね。(発言する者あり) そういうもんですから、そういう場面を変えてね、やっていくと。

いやー、ひどい目あったんですよ。伊万里の人から大変な苦情を受けたんですよ。ぽーっと書くですからね。そういうことやめましようっていう意味です、以上です。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

はい。先ほど申しましたように、精査して、また後ほど御報告させていただきます。

ここで1時20分まで休憩をいたします。